

## 49. 鶏白血病罹患鶏における皮下と心臓の神経鞘腫(Schwannoma in subcutaneous tissues and heart of the chicken affected with avian lymphoid leukosis)

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者名	稲垣,秀晃
発行元	
巻/号	36巻3号
掲載ページ	p. 158
発行年月	2000年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## 食鳥病変シリーズ

### 49. 鶏白血病罹患鶏における皮下と心臓の神経鞘腫 (Schwannoma in subcutaneous tissues and heart of the chicken affected with avian lymphoid leukosis)

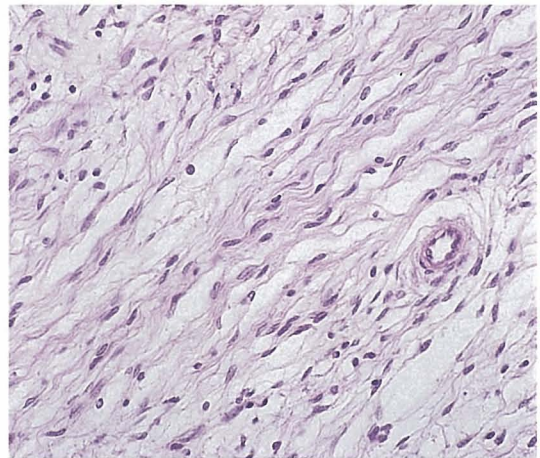
キーワード：神経鞘腫，鶏白血病，採卵成鶏



#### 胸部皮下織の肉眼病変

充実性かつやや柔軟な結節性病変で、断面は光沢のある乳白色を呈し、薄い線維性被膜で被われ、周囲組織からの剝離は比較的容易。また、病変の外側に沿って前胸神経様の神経が走行する。

**動物：**採卵成鶏，雌，銘柄・日齢は不明。  
**発生状況：**平成11年12月7日，横浜市内の認定小食鳥処理場で処理された採卵鶏418羽中の1羽。  
**生体所見：**著しい消瘦を呈していた。  
**肉眼所見：**胸部，腹部および頸部の皮下織に大きさがそれぞれ40×30×30mm，15×10×10mm，直径3mmの結節状病変が認められた。これらの病変は，いずれも充実性かつ柔軟で断面は光沢のある乳白色を呈し，薄い線維性被膜で被包され，周囲組織からの剝離は比較的容易であった。また，胸部皮下病変の外側に接して，前胸神経と思われる神経が走行していた。ファブリキウス嚢と卵巣の結節状病変は直径40mmと30mm大で外見上単発性の腫瘍であったが，断面では大小の小結節塊から成り，灰白色髓様で部分的に壊死と思われる褐色部が散在していた。十二指腸から直腸に至る腸管には直径数mm～10mmの結節が多発し，その断面は灰白色髓様で周囲組織との境界は明瞭であり，病変は腸壁内から発生していた。同様の病変は左右の腎臓にも多発し，脾臓には直径1～5mm大の灰白色髓様の結節が多発していた。また，ホルマリン固定後に直径3mmで周囲組織との境



#### 胸部皮下織腫瘍の組織所見

腫瘍細胞は境界が不明瞭で，細長い波状の核を有し，核分裂は認められなかった。HE染色

界がやや明瞭な白色結節が左心室壁内に見出された。  
**組織所見：**結節状病変には次の様な二種類の組織病変が観察された。心臓以外の体腔内の病変では，幼若なリンパ球様の腫瘍細胞が周囲組織を圧迫しながら増殖していた。腫瘍細胞は大きさが比較的均一の類円形で，大型の淡明核と好塩基性ないし好酸性の豊富な細胞質を持ち，核分裂像やstarry sky像が頻繁に認められた。皮下織と心臓の病変では，不規則に交錯した長紡錘形の腫瘍細胞が束状あるいは渦巻き状に増殖していた。腫瘍細胞は境界が不明瞭で，細長い波状の核を持ち，核分裂像は認められなかった。  
**特殊検査：**皮下織と心臓の病変において，アザン染色では腫瘍細胞は淡青色を呈し，鍍銀染色では細線維は殆ど見られず腫瘍細胞は淡赤紫色に染まった。また，抗S100a抗体を一次抗体とした免疫染色では腫瘍細胞は陽性を示した。  
**診断：**皮下織と心臓の病変については，腫瘍組織内に線維成分が殆ど見られないこと，S-100a染色で腫瘍細胞が陽性を示すことなどから神経鞘腫と診断した。また，他の臓器における病変は腫瘍細胞の形態からリンパ腫と診断され，本例は，鶏リンパ性白血病患者鶏における皮下と心臓の神経鞘腫とされた。

著者：稲垣秀晃 (Hideaki Inagaki) 横浜市食肉衛生検査所，〒230-0053 横浜市鶴見区大黒町3-53

この病例は，全国食肉衛生検査協議会病理部会で発表されたものであり，事例No.1678です。